

中国館 “多彩な雲南” 大型文芸公演

公演時間：2005年7月2日

第一回公演 11:00～12:30

第二回公演 14:30～16:00

公演場所：EXPO ドーム

雲南の紹介：

雲南は中国西南部に位置する美しい地方で、中国の「植物の王国」、「動物の王国」、「非鉄金属の王国」と褒め称えられています。神秘的な赤い高原には26の民族が暮らしており、人々は歌と踊りがとても好きです。その風光明媚な自然風景と独特な民族文化が溶け合って、人と自然が調和した一幅の絵のような美しい世界を築きあげ、“多彩な雲南 観光の都”と称されています。

20世紀末、昆明において世界から注目された“99昆明世界園芸博覧会”が開催されました。今回中国雲南の“昆明世界博園芸術団”は、雲南の各民族の友好の使者として日本愛知万博に赴き、雲南の独特な民族歌舞を上演し、日本の皆様及び各国からのお客様に御挨拶を申し上げます。

公演プログラムの紹介：

1. 民族舞踏 〈歳花灯（ウェイホワドン）〉

雲南花灯は歴史が長く、雲南の漢族の好きな演芸のひとつです。“歳花灯”は雲南の人々の楽しい生活場面や、幸せな生活を探求する活力を描写しています。

2. 民族雑技 〈滾灯（グンドン）〉

瀾滄江のほとりシーサバンナ熱帯雨林の中で生活するタイ族の雑技です。

3. 民族舞踏 〈下駄の踊り〉

かつて多くの日本の研究者が、日中両国の歴史文化と、人類発展の歴史においての共通点を探る為、雲南で調査を行いました。そこで雲南の神秘的な少数民族ハニ族の生活習慣は、日本人とたいへんよく似ていることが分かり、日本の研究者に注

目されました。

下駄は日本民族の伝統的な服装の重要な一部分であります。雲南ハニ族の支流である迺車人が生活、踊り、労働の場面で下駄を用いるのも千年以上の伝統と歴史があります。雲南ハニ族の支流、迺車人による“下駄の踊り”を御鑑賞下さい。

4. 民謡 〈小川の流れ〉

雲南の民謡はとて多く、その中で“小川の流れ”は最も代表的な曲です。この曲はウィーンのゴールデンホールで公演したこともあり、世界音楽学校の教材になり“東方のセレナーデ”と褒め称えられています。雲南少数民族青年歌手、何紓が歌う“小川の流れ”をご鑑賞下さい。

5. 民族舞踏 〈春のリズム〉

美しく豊かなシーサバンナには、“水の民族”、“しなやかな民族”、“美しい民族”と言われるタイ族が生活しています。タイ族の女性は“形の美しさ” “衣装の美しさ”、“芸術的な美しさ”、“生活の美しさ”を融合し、人の心を酔わせ、神様をも陶醉させるほどです。タイ族の集団舞踏“春のリズム”を御観賞下さい。

6. 民謡 〈ソーラン節〉

雲南の民謡“小川の流れ”が世界的に“東方のセレナーデ”と褒め称えられていますが、日本の民謡も雲南の各民族の間で流行しています。その一つが“ソーラン節”です。雲南青年歌手、左斌による日本民謡ー“ソーラン節”を御鑑賞下さい。

7. 民族舞踏 〈髪振り回し踊り〉

56の中華民族の中に、高棉語族に属する神秘的な民族がいます。それは雲南の辺境地に暮らしている民族ーワ族です。わずか30万人の民族は、文字記載された歴史は数百年しかありません。しかしワ族の歴史を反映した“滄源岩画”は、日本の民族学者の研究によると、その原料は3000年前の物だそうです。ワ族の3000年の悠久な歴史は人類史の謎であり、雲南各民族の悠久の歴史文化の宝庫の一つであります。ワ族の髪を振り回しての踊りは、世界でもとても珍しく、ここにしかありません。ワ族の本場の祭りの踊り“髪振り回し踊り”を御観賞下さい。

8. 民族舞踏 〈ワサワナサ〉

雲南には国連の世界自然遺産に登録されたところがあります。それは金沙江、瀾滄江、怒江が合流するところ、ヒルトンの小説「失われた地平線」に描かれたエデンの園ーシャングリラ。シャングリラは人類の楽園、それが中国の雲南にあるのです。シャングリラの3つの川の合流する地に住むリス族の歌舞“ワサワナサ”を御鑑賞下さい。

9. 民族楽器演奏 〈葫芦糸（フールース）〉

葫芦糸は雲南タイ族の伝統的な楽器で、心地よくて美しい音色がします。若者が葫芦糸を吹き、好きな少女に愛を表します。又嬉しい時も葫芦糸を吹き、幸せを表現します。タイ族葫芦糸独奏“美しい地方”を御鑑賞下さい。

10. 民族舞踏 〈打歌（ダーゲー）〉

打歌は皆で輪になって踊るもので、雲南の多くの民族に好まれています。赤い高原に暮らしている民族の若者達は、歌と踊りで家族、生活、未来に対する愛を表します。当日の公演では世界に向かって“人と自然の調和”を表現します。

愛知世界博覧会 中国館

2005年6月28日